

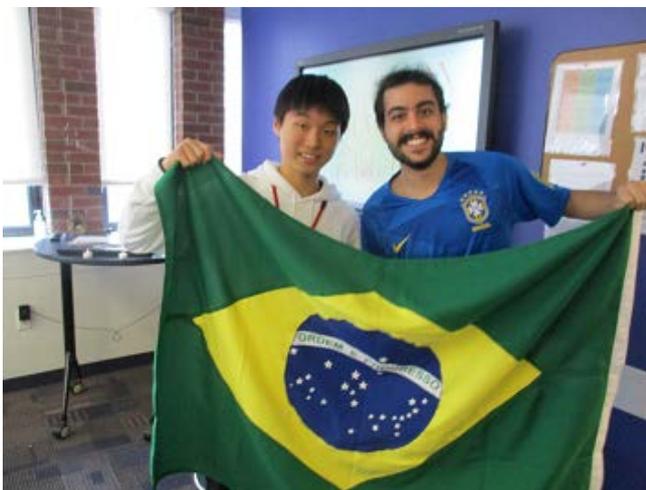
アメリカ研修 6 日目の報告でございます。

本日は早くも英語クラス最終日、気合の入った様子で登校し各クラスに向かう生徒たち。何とか慣れてきたここでの授業、これまで以上に理解できるよう、また発言できるよう、そして他国生と交流を深められるよう決意が感じられます。そして 8:30 から始まった授業も 1 限目が終わり 10:00 に。通常であればここで休み時間となるのですが、毎週金曜日はその週にこの学校を去る学生・生徒たち（他国生含む）の Graduation Ceremony（修了証授与式）が行われます。セレモニーではまず個人で来ている他国生がクラス毎に呼ばれ、担当講師からのコメントと各自ここでの経験や友人たちへの感謝が述べられます。そしてその後はお待ちかねの魚高生の番です。まずは皆にお礼の意味も込め歌を歌いたいと名乗りを上げた生徒さんよりアラジンの名曲「A WHOLE NEW WORLD」をもちろん英語で披露！講師はもちろん、他国生からも大歓声が上がります。さらに別の生徒さんからも感謝を示したいということで、フリーダムトレイルで見た州議事堂の絵をこの日のために書き上げ、講師にお礼を述べ、プレゼントとして渡しました。国籍豊かで年齢層も幅広い他国生の中での堂々とした姿には成長が見て取れました。

またこの後は修了証を各自受け取ります。ここまで苦労もありましたが、この 1 週間で少し自信もつき、一皮むけたような満面の笑顔が印象的でした。



Graduation Ceremony



仲良くなったブラジル人留学生と



新たにできた仲間と

そして午後はボストン在住 20 年以上、IT・医療関連業種を中心にマーケティング会社を経営している松川原 康市氏より、「AI 時代をどう生きる？」というテーマで講演をいただきました。日米両方の社会や企業を知る立場から、AI が台頭しこれまで以上に目まぐるしく変容していく中、これから社会に出る高校生が何を意識し、どのように適応して行けば良いのか、今できる準備や心構えはといったお話をいただきました。

AI の浸透による職業の淘汰が盛んに叫ばれており、会社や仕事のあり方が変わってくる中で、重要になってくるのはそれぞれの考え方。AI で仕事が減るという話が出ているが、職業の内容が変化することや新しいものが増えることもある。完全になくなってしまふことはない。やり方次第では生き残ることもできる。つまり AI にはできないことを伸ばしていけば問題が無い。自発的に自分でモノゴトを進めていく力、また自分軸で考えることの重要性を説いていただきました。

そしてそういった力、特に考える力を付けていくために、自分の好きなこと、嫌いなことをはっきりさせる。それもなぜ好きなのか、嫌いなのかを問うようにする。こうして自分を深堀りしていくことで、周りの評価でなく、これが自分の進むべき道だと見えてくる。日本の生徒たちは自分に蓋をしてしまい、自分の“思い”を殺してしまう。この自分の思い、また主観を大事にしてほしい。これが武器となる。主観でなく、客観を追求すると似たようなデータで同じようなものができる。つまり代替が可能で面白みがなくなってしまう。しかしながら、主観が入ることによって面白みが生まれるし、その思いから共感を得られ、人を感動させることまでできる。そのために考える力をつけるべきである。

「何が目標か?」「何が夢か?」よりも「自分がどう生きたいのか」を考え、他人の評価で生きる他人軸ではなく、自分軸で生きることの大切さ、自己否定を止め自分を認める・大好きになることで、社会からも実は認められるようになるというメッセージをいただきました。世界を舞台に働く松川原氏の言葉は、力強く生徒達の心に響いたように感じます。



そしてさらに本日は語学学校カプランより、火曜日に雪で休校となった授業の埋め合わせにということで、スペシャルクラスを開講いただきました。残念ながら他国生は別のスケジュールで動いているためおりませんが、Luke 先生より魚高生のための特別講座です。内容は「地域」ということで地域を伝える際の様々な表現や言い回しを学びました。とくに海外に出て、またいろいろな人と接する際に、例えば日本という大きなくくりだけでなく、北陸⇒富山県、さらには魚津といった地域のことを紹介すること

が多くあります。その際にすぐに生かすことができるテーマでした（この滞在中にもまだチャンスはあるかと思います）。安全を考慮し天候事由での休校でしたのでここまで特別な対応は通常していただけないのですが、最後にまた特別なレッスンをいただき、暖かい気持ちで語学学校を後にしました。



スペシャルクラスの様子

以上、6日目の報告とさせていただきます。